様式（6）

学　位　審　査

学　位　番　号	甲 第 598 号	氏　　名	前田　和宏
審　査　委　員　会	主　査　教　授	萩原　誠久	

論文審査の要旨（400 字以内）

甲状腺の形態形成は肥厚、発芽、遊走下降、分葉、濾胞形成の 5 つの段階からなるが、各段階の詳細な発育機序は解明されていない。頭部神経堤は甲状腺形成に関与し、その一部の後耳胞神経堤焼灼除去胚は心血管異常と共に甲状腺形態異常が報告されている。本研究では、頭部神経堤を前耳胞と後耳胞神経堤の 2 つに分け、各部位の神経堤が甲状腺形態形成にどのように関与するかを比較検討した。前耳胞神経堤細胞は肥厚後期から遊走下降期の甲状腺原基を取り囲んだが、その後の甲状腺形成には全く関与していなかった。一方、後耳胞神経堤細胞は初期形成には関与せず、第 3 鰓弓動脈平滑筋と甲状腺間葉組織に分化していた。前耳胞神経堤焼灼除去した胚の甲状腺は 1 葉のみ形成されたが、後耳胞神経堤除去では甲状腺がほとんど形成されない胚を多く認めた。以上の結果から、甲状腺形成には初期には前耳胞神経堤が、後期には後耳胞神経堤が関与することが示唆された。

本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。（本学学会雑誌に公表）[学校教育法学位規則第 8 条]